

院内掲示用

患者さん及び代理人の方へ

## 『一酸化炭素中毒レジストリー』について

当院集中治療部では多施設共同研究として、平成 28 年 5 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの間に急性一酸化炭素中毒で入院された患者さんを対象に調査研究を行っており、内容については下記のとおりとなっております。

尚、この調査研究についてご質問などございましたら、最後に記載しております【問い合わせ窓口】までご連絡ください。

### 【研究背景】

急性一酸化炭素中毒の治療として、通常は酸素投与や高気圧酸素療法などの治療を受けることとなります。急性期の治療としてだけでなく、間歇(かんけつ)型(遅発性神経障害)の発症予防として高気圧酸素治療が行われてきましたが、その有効性についてははっきりとはわかっていません。高気圧酸素治療の行える施設では高気圧酸素治療を行い、そうでない施設では、大気圧下の酸素治療が行われているのが現状です。それらをふまえ、多施設共同で急性一酸化炭素中毒に対する高気圧酸素療法の有効性を調べる研究を行うことになり、当院もこの研究に参加することになりました。

### 【研究内容】

今回研究に参加していただくのは一酸化炭素の暴露(ばくろ)が疑われ、経過中に頭痛、吐き気、意識障害等の症状が出るか、血中のカルボキシヘモグロビン濃度が 10%以上である患者さんです。入院時に、「自覚症状」、「他覚症状」といった身体所見を調べ、血液や尿を調べる「臨床検査」等を行います。その後治療として大気圧下での酸素投与もしくは高気圧酸素治療を受けていただきます。行われる治療はこの研究に参加してもしなくても同じです。

### 【研究期間】

この研究は平成 28 年 5 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで行う予定です。

### 【個人情報の管理について】

個人情報漏洩を防ぐため、群馬大学集中治療部においては、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

### 【研究に参加することによる利益・不利益】

利益・・・本研究に参加することで患者さんに直接的な利益はありませんが、将来的に治療法が改善し、利益を受ける可能性があります。

不利益・・・本研究に参加することで患者さんに直接的な不利益はありません。

### 【研究へのデータ使用の取り止めについて】

いつでも可能です。患者さんあるいはそのご家族からの代理人（患者さんが、ご自身の意思を伝えられない健康状態にある場合など）がデータを本研究に用いられたいと考えられた際には、下記[問い合わせ窓口]までご連絡ください。取り止めの希望を受けた場合、それ以降、患者さんのデータを本研究に用いることはありません。しかしながら、同意を取り消した時、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合のように、結果を廃棄できない場合もあります。

### 【研究機関】

群馬大学医学部附属病院集中治療部

部長 齋藤繁(研究責任者)

副部長 日野原宏

助教 戸部賢

助教 金本匡史

助教 松岡宏晃

群馬大学大学院医学系研究科救急医学

教授 大嶋清宏

研究総括

山口大学大学院医学系研究科救急・総合診療医学

教授 鶴田良介

### 【問い合わせ窓口】

この研究についてのご質問だけでなく、ご自身（患者さん）のデータが本研究に用いられているかどうかをお知りになりたい場合や、あるいはご自身（患者さん）のデータの使用を望まれない場合など、この研究プロジェクトに関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせ下さい。

群馬大学医学部附属病院 集中治療部 助教 松岡宏晃

連絡先：027-220-8693